

SBRA

鉛蓄電池
回収量

上期3.5%増も低水準

無償ルートに流れにくく

鉛蓄電池再資源化協会(SBRA)はこのほど、2019年度上期(3月21日ー9月20日)のリサイクル実績を発表した。電池処理量は前年同期比3.5%増の4583ト。低水準での微増にとどまり、韓国向け輸出が全面ストップして廃バッ

テリー市中相場が下落しながらも、無償回収ルートには流れにくい実態が浮き彫りになった。処理単価はキロ42.5円。

同協会は大手バッテリーメーカーが運用資金を拠出し、使用済み鉛蓄電池(廃バッテリー)を回収して国内での適正なリサイクルを推進するための一般社団法人。排出業者の依頼を受けて無償で回収し、解体・精錬業者に処理を委託して精錬鉛を全量引き取るスキームが12年に始まったが、14年度以降は減少傾向が続き、前年比プラスとなったのは17年度上

期のみ。19年度上期は2年ぶりにプラスとなったが底はいだった。ピーク時で月間1万ト、国内発生約4割が流出していた韓国向け輸出は、今年からパーセル法改正によって歯止めがかかった。それに伴い廃バッテリーの余剰感が表面化した。

て、市中相場もキロ20ー30円台に下落。輸送コストのかかる地方によっては逆有償の可能性も出ており、回収コストを負担するSBRAの役割が増すとみられていた。

しかし、今夏には余剰感が薄らいで、廃バッテリー市価は底離れ。二次精錬メーカーによっては粗鉛(フリオン)に加工し、引き合いのある東南アジアなどへ輸出するルートが定着しており、有償を主とする廃バッテリー回収ルートは変わらなかった。

鉛蓄電池再資源化協会(SBRA)の半期ごとの処理実績

